

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 地域の第一線で頼りにされ、愛され、そして地域を支えていく「地域の星」となる人材を育成する。
- 教科指導および進路指導の強化、さらに部活動や学校行事を通して生徒の進路選択肢を増やし、将来幅広い分野で活躍できる人材を育成する。
- 自らを律し、他人に思いやりを持ち、何事にも誠実に取り組む態度を育成する。
- 共生推進教室の設置により、ノーマライゼーションを推進できる人材を育成する。
- 国際交流活動を通して、多様性を享受する能力を育成する。
- 地域連携をさらに推進し、地域とともに成長し信頼される学校となる。

2 中期的目標

1. 学力の向上

- (1) 「わかりやすく楽しい授業」や「個々の進路実現に役立つ授業」など生徒の実態に応じた幅広い内容の授業による、生徒の授業満足度の向上
 - ア 教員研修・教員間の指導法の共有により、生徒1人1台端末やその他ICT機器を活用した授業を多くの教員が取り入れ、「知識・技術」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学びに向かう態度」を育成
- (2) 3年間を見通した学力および学習習慣の育成
 - ア 学力生活実態調査及び全国模試を実施し、教員の分析会や保護者懇談で活用
 - ※ 学校教育自己診断：「授業内容は進路実現に役立つ」への生徒の肯定的回答を令和6年度も75%以上 (R1:78.7/R2:81.9%/R3:76.5%)
 - ※ 学校教育自己診断：「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」への生徒の肯定的回答を令和6年度も85%以上を維持 (R1:93.1/R2:96.0%/R3:92.5%)
 - ※ 学力生活実態調査において、3年間学力到達レベルB3以上を令和6年度も維持 (R1:B3/R2:B3/R3:1年B2・2年B3)

2. 自主的な活動の推進

- (1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化
 - ア 各行事の生徒実行委員の公募による多くの生徒の企画への参画
 - イ 部活紹介や体験入部期間を学年行事として実施
- (2) 地域と連携した事業並びに国際交流への積極的な参画
 - ア 外部団体等と連携したSDGsへの取り組みや地域のイベントに積極的に生徒を派遣
 - イ 地元NPO等と連携した国際交流活動を企画・推進
 - ※ 部活動への参加率を令和6年度も70%以上を維持、活動実績の向上 (R1:71.5/R2:69.6%/R3:69.8%)
 - ※ 学校教育自己診断：「国際交流、他校または地域との交流活動に参加する機会が多い」への生徒の肯定的回答を令和6年度も30%以上 (R1:37.3/R2:25.1%/R3:27.8%)

3. 安全で安心な魅力ある学校づくり

- (1) 教員の相談スキルの向上及び教育相談体制の一層の構築
 - ア 生徒状況の把握及び相談しやすい体制づくり
 - イ 学年・教育相談委員会との情報共有とOJTによる経験の浅い教員への相談スキルの育成
- (2) 人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちをより一層涵養する。
 - ア 人権HRや講演会、教員研修の実施
 - イ 共生推進教室の生徒との協同事業や交流機会の設定
- (3) 規範意識の涵養、いじめ防止などについて継続的な指導
 - ア オリエンテーションの実施や啓発文書の配布
 - イ 外部講師による交通事故の防止、SNSの適正利用についての講演会の実施
 - ※ 学校教育自己診断：「悩んだり困ったりした時に相談できる先生がいる」への生徒の肯定的回答を令和6年度も65%以上 (R1:66.0/R2:66.9%/R3:68.2%)
 - ※ 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答を令和6年度も80%以上 (R1:81.5/R2:88.3%/R3:87.5%)
 - ※ 学校教育自己診断：「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」への生徒の肯定的回答を令和6年度も70%以上を維持 (R1:82.8/R2:85.7%/R3:86.1%)

4. 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導

- (1) 早い段階からの進路意識の涵養
 - ア 「総合的な探究の時間」を活用した進路学習
 - イ 外部模試を活用した進路目標達成に向けた準備戦略の確立
 - ウ 進路ガイダンスの実施
- (2) 進路目標達成に向けたサポート
 - ア 希望者による学習合宿や進学講習の実施
 - イ 英検受験の推進と合格に向けたサポート
- (3) 「共に学び、ともに育つ」の理念の下、共生推進教室の生徒の社会性スキルの育成と就労をサポート
 - ア すながわ高等支援学校との教育方法の共有と教員間の指導目標の共有
 - イ 外部団体と連携した就労体験や体験活動を通じた社会性スキルの育成
 - ※ 英語運用能力テストでCEFR A2レベル以上相当資格取得者を令和6年度も40名以上在籍 (R1:57/R2:未実施/R3:1回のみ実施)
 - ※ 学校教育自己診断：「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会が多い」の生徒の肯定的回答を令和6年度も40%以上 (R1:52.0/R2:45.9%/R3:48.5%)
 - ※ 共生推進教室の卒業時の希望進路達成を令和6年度も100% (R1:100/R2:100%/R3:100%)
 - ※ 中堅上位以上大学(国公立・関関同立・産近甲龍など)レベルの現浪合格数を令和6年度も250以上を維持 (R1:168/R2:177/R3:279)
 - ※ 中堅大学(摂神追桃など)レベルの現浪合格数を令和6年度も300以上を維持 (R1:242/R2:205/R3:388)

5. 広報活動の充実

- (1) 本校の生徒や教育活動の地域への拡散
 - ア 地元中学校との部活などによる合同活動を推進
 - イ 多くの参加者が安全に楽しく体験授業や部活見学などに参加できるよう学校見学会(説明会)を企画・実施
 - ウ 学校ホームページなどを活用した本校の教育活動の積極的な発信
 - ※ 学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」の保護者の肯定的回答を令和6年度も85%以上 (R1:86.9/R2:88.8%/R3:87.7%)
 - ※ 中学3年生対象第1回進路希望調査において令和6年度も希望倍率2.30以上 (R1:2.37/R2:2.46倍/R3:2.34倍)

6. 職員の時間外勤務時間の縮減

- (1) 職員が19時まで退勤できる職場環境づくり
 - ア 生徒の最終下校時刻遵守の徹底とそれに合わせた職員の退勤の徹底
- (2) 部活動指導時間のマネジメント
 - ア 月間活動計画の掲示による情報共有
 - ※ 年間の職員の月平均時間外勤務時間数を40時間未満(令和3年度からの集計方式による)に令和6年度も維持(R3:34.33h)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p style="text-align: center;">[生徒:生/保護者:保、% (前年比)]</p> <p>1. <u>生徒・保護者とも肯定的回答が上昇している項目</u> 「行事楽しく行える工夫」生 92.3(+7.2)/保 85.1(+5.6)</p> <p>2. <u>1以外で生徒または保護者で肯定的回答が80%以上の項目</u> 「学校が楽しい」生 82.9/保 79.2、「いじめ対応」生 84.9/保 72.7、「授業工夫」生 94.7/保 51.5、「将来の進路」生 84.6/保 78.4、「命の大切さ」生 84.6/保 79.3</p> <p>3. <u>教職員で肯定的回答が昨年比10%以上、上昇した項目[% (前年比)]</u> 該当なし</p> <p>4. <u>昨年度より生徒または保護者の肯定的回答が大きく下降した項目</u> 「相談できる先生」生 68.4(+0.2)/保 63.7(-6.1)、「生徒指導」生 67.6(-2.5)/保 76.4(-4.3)、「学校情報」生 77.9(-9.8)/保 74.6(-14.5)</p> <p>5. <u>分析</u> ※行事については、従来の形式で実施できたことが大きい。2年ぶりに保護者も行事に参加できたことが結果につながった。「学校に行くのが楽しい」(生徒肯定 82.9/保護者肯定 89.2)、「遠足・体育祭・文化祭・修学旅行など楽しく行われるよう工夫されている」(生徒肯定 92.3/保護者 85.1)について、生徒、保護者ともに、昨年度より肯定的評価が増加した。 ※授業については、工夫されているとの回答が多く(生徒肯定 94.7)、ICT活用を取り入れた授業は日々更新されており、生徒1人1台端末(タブレット)を取り入れた授業も進んでいる。また、「授業がわかりやすく楽しい」(生徒肯定 71.5/保護者肯定 58.3)についても、生徒、保護者ともに、昨年度より肯定的評価が増加した。 ※上記のように、授業、行事等の学校生活の充実が、「学校に行くのが楽しい」(生徒肯定 82.9/保護者肯定 89.2)について、生徒、保護者ともに、昨年度より肯定的評価が増加することにつながったと考える。 ※「授業内容が進路実現に役立つ」の肯定的評価は(生徒 75.3/保護者 68.8/教職員 88.5)である。また、望む授業については、保護者、教職員は「知識より人間性、社会性を養う」、生徒は「生徒に応じた授業レベル、スピード」をもっとも重視している。しかしながら、教職員が望む授業としては、昨年度と比べ、「生徒に応じた授業レベル、スピード」が増加(+13.7)、「進路希望を実現できる学力を高める」が減少している(-13.5)。このことから、進路実現に役立つ授業を行っているが、昨年と比べると、進路実現に必要な授業レベルよりも生徒のニーズに応じた授業レベルとスピードを重視する割合が増えたと考えられる。今後、生徒のニーズに合わせて、それが進路実現に必要な授業レベルとなるよう工夫が必要と考える。 ※記述式アンケートでは、感謝のコメントが多数見受けられる一方で、「子どもとの会話があまりないので、学校の様子がわかりません」、「部活動がメインになりすぎて、学校や授業のことをあまり把握できておりません」などの内容のものも少なからずあり、学校の情報をもっと工夫して発信する必要があると考える。また、他にも貴重なご意見をいただいております、全教職員で協力して改善への取り組みが必要であると考えます。</p>	<p>【第1回(令和4年6月18日実施)の抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことを経験させることが進路実現につながる。一般には、大学に入るのが目標だという生徒が多いが、久米田の生徒は高校時代ががんばることを身につけている。 ・久米田は他校と比べ岸和田市など泉州地域の公務員に就職する割合が高い。地域で活躍できる人材の育成を行っていくことは大切である。 ・SDGsについて知ることは、学校において、交流の機会にもなり、いろいろな経験をして人格形成をすることにつながる。高校時代からの意識付けが大事である。 ・進学した大学に「後悔している」という学生が半数もいる。満足している生徒は、世の中に関心がある。今のうちに、進路実現と人格形成のためにSDGsに触れさせておくことも大事である。 <p>【第2回(令和4年10月15日実施)の抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉南地区の私立高校のトイレを見てきたがほとんどが洋式だった。公立ではまだ和式のトイレも見られる。トイレにも設備投資しなければ公立離れがさらに進んでしまう。洋式でないとトイレができない子もいる。岸和田の市役所もほとんど洋式化を行った。岸和田市の中学校は洋式が進んでおり、すべて洋式になった。トイレの洋式化が必要であると感じる。 ・「卒業生による進路ガイダンス」とあるが、卒業生の話を開けるのは生徒たちにとって大きなことだと思う。高校生の中にはまだ将来の目標がない子がいる。そのような生徒にとっても先輩の話を知ることができるのは効果的だと思う。ぜひ続けて欲しい。 ・スクールミッションがあると保護者にどんな生徒教育を心がけているのか分かりやすい。近年、その学校でしか学べない分野の重要性が増してきている。スクールミッションがあると進学の際に学校選択の判断材料として重要な役割になると思う。 ・新型コロナウイルスの蔓延が収まってきているのもあり、行事を行えているのが学校全体として順調に思える。しかし、遅刻が増えてきているのが気になる。遅刻は他の授業出席者のモチベーションに関わるので、授業遅刻が多いならば、何か対策を考えていかなければならない。 ・久米田高校はクラブ加入率がもう少し高い印象があった。学校内で元気に活動して欲しい。 ・30年以上前ウォークマンがはやった。テスト前勉強内容をテープに録音しウォークマンを貸し出したところそれらを活用した生徒たちの成績が上がった。勉強は、分かると面白い、分からなければやらないという循環になってしまう。教員の負担は増えてしまうが、勉強が分かるようになるためにICT環境を整えられるようにして欲しい。 ・昔は、勉強は自分が頑張るものであったが、今は先生の授業が分かりやすくなっており、それよって勉強を頑張る生徒も多くなって来ている。ただ、自分が分からなくなったときに自分自身で理解しようとする力は少なくなってきているように感じる。 ・ICTをつかって先生の負担も減らしながら、生徒が頑張れる環境をつくって欲しい。 <p>【第3回(令和5年2月18日実施)の抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の3年生は新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた学年であるが、学校に対する評価が良く、学校としても良好だと思う。 ・授業進度については、進学を意識すると生徒達にとっては早く感じ、生徒に合った進度にすると、進学のためには遅く感じる。丁度良い進度にするのは難しい。 ・今年度は行事をできていることに生徒達は有難さを感じているが、これからは当たり前になってしまう可能性がある。そのため、行事などへの肯定的な回答の割合はこれから下がっていく可能性がある。 ・高校選択では、経済的な要因で自宅から近いところを選ぶ家庭がこれから増えていくと思うので、あまり希望者倍率に捉われずに、地域の人達の意見を聞いて学校をより良くしていくとよい。 ・会社では、個人で外部にメール送信をするときには、必ずCCに部長を入れることになった。ICT関連のセキュリティが以前より厳重になって来ている。学校もセキュリティの意識を高めなければならない。 ・大学の部活も、コロナ禍の影響で人数が減少し休部になっているところが増えていく。高校でも他校との合同練習などが必要である。 ・今まで授業はパワポを使っていたが、今年は全て板書に戻してみたところ、今まで一番授業評価が高かった。ICTを使うことも大事であるが、手を動かすことも大事なかもしれない。「わかった」という気持ちにさせるには、自分で何かをする時間が必要だと思う。塾などでは、効果的な活用として、振り返りなどにうまくICTを活用している。授業を録画しておく、アルバイトが終わった後に動画を観る生徒が出てくるかもしれないし、生徒自身の負担も減る。ICTの活用の仕方でも考えていかなければならない。 ・最近、会社もペーパーレス会議になった。それによって、頭に入りやすくなったが、頭から抜けやすくなった。自分で書くことによって、頭に残す必要があると思う。 ・塾や予備校によって志望校に合格する訳ではなく、生徒のモチベーションをどのように維持、向上させていくかが大事である。 ・子どもの自転車の違法行為も保護者の賠償責任となり、年齢に関係なく、賠償責任を負う時代だと言える。自転車通学者の賠償責任保険の加入が必要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 学力の向上	<p>(1) 生徒の実態に応じた幅広い内容の授業による、生徒の授業満足度の向上</p> <p>ア 職員研修・職員間の情報共有</p> <p>(2) 3年間を見通した学力および学習習慣の育成</p> <p>ア 学力生活実態調査及び全国模試を実施</p>	<p>(1) 生徒1人1台の端末やICT機器を活用し、生徒が自ら考え発表し、主体的に活動できる能力を寛容する。</p> <p>ア 職員研修や実践報告会を1・2学期に1回ずつ実施</p> <p>新型コロナウイルスによる出席停止等で授業に参加できない生徒への学習保障のためオンライン授業を積極的に実施する。</p> <p>(2) 学力・学習習慣の育成</p> <p>ア 学力生活実態調査を4月に全学年、7月に1・2年生全員受験。全国模試を3年生は希望者で適宜、1・2年生は1月に全員受験。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校自己診断「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」生徒の肯定的回答90%以上[92.5%]</p> <p>学校教育自己診断：「授業内容は進路実現に役立つ」生徒の肯定的回答75%以上[76.5%]</p> <p>学校自己診断「ICTの活用やグループ討議等により、思考力を高め、言語能力を重視した授業を行っている」職員の肯定的回答70%以上[71.6%]</p> <p>教員ICT活用率70%以上[73.1%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 7月の学力生活実態調査の学力結果(GTZ)を 1年生 B2以上[B2] 2年生 B3以上[B3]維持</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校自己診断「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」94.7%(◎)</p> <p>学校教育自己診断：「授業内容は進路実現に役立つ」75.3% (○)</p> <p>学校自己診断「ICTの活用やグループ討議等により、思考力を高め、言語能力を重視した授業を行っている」60.7% (△)</p> <p>思考力をより高めることができるようにグループ討議等を増やす授業づくりを進めたい。</p> <p>教員ICT活用率82.1% (◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア 学力生活実態調査(8/26実施)の学力結果 (○) 1年：B2(国B3・数B3・英B2) 2年：B3(国B3・数B2・英B3)</p>
2 自主的な活動の推進	<p>(1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化</p> <p>ア 各行事への多くの生徒の企画参画</p> <p>イ 部活紹介や体験入部の実施</p> <p>(2) 地域と連携した事業並びに国際交流への積極的な参画</p> <p>ア 外部団体等と連携したSDGsへの取組みや地域のイベントに積極的に生徒を派遣</p> <p>イ 地元NPO等と連携した国際交流活動を企画・推進</p>	<p>(1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化</p> <p>ア 体育祭が体育専門コースから生徒会主催行事に移行するのに伴い、運動部員を中心とした実行委員会を組織し企画・運営する。</p> <p>イ 入学当初に1年生に対しての部活紹介を実施。併せて全員必参加の体験入部期間(1週間)を学年行事として位置づけ実施する。</p> <p>(2) 地域と連携した事業並びに国際交流</p> <p>ア EXPO2025共創チャレンジへの参画「KIUETA1」の活動に共生推進教室や生徒会・写真部とともに植栽活動に参加</p> <p>地元専門学校と地方創生SDGs「泉州美食」EXSP0に3年生の家庭科選択者を中心に参加</p> <p>イ 地元NPO等と連携したオーストラリアの高校への生徒派遣事業を実施。新型コロナで派遣不可能な場合はオンラインで交流会を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校自己診断「遠足・体育祭・文化祭・修学旅行などは、楽しく行えるよう工夫されている。」生徒の肯定的回答85%以上[85.1%]</p> <p>イ 入部率70%以上[69.8%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・イ 学校自己診断「近くの学校との交流や国際交流、ボランティア活動等に参加する機会がある。」生徒の肯定的回答30%以上[27.8%]</p> <p>イ 海外の高校生との交流事業を1回以上実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校自己診断「遠足・体育祭・文化祭・修学旅行などは、楽しく行えるよう工夫されている。」92.3%(◎)</p> <p>イ 入部率64.9%(△)</p> <p>コロナ禍が続くことによる中学時の部活経験者も減少する中、入部を推進する工夫が必要と考える。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校自己診断「近くの学校との交流や国際交流、ボランティア活動等に参加する機会がある。」27.0%しかしながら、ダンス部、太鼓部が、岸和田市政100周年記念式典行事、泉大津市政80周年記念式典行事に参加。また、近畿高等学校PTA連合大会大阪大会歓迎アトラクションに参加。地元小学校への体験活動も実施。(○)</p> <p>今後、更に工夫して生徒が交流する機会を増やしていきたい。</p> <p>イ カナダのリンジーサーバーハイスクールとの国際交流で、生徒クリスマスカードや年賀状のやり取りを実施。また、日系アメリカ人の高校生が来校し、ESCと有志生徒で国際交流を実施(◎)</p>

府立久米田高等学校

<p style="text-align: center;">3 安全で安心な学校作り</p>	<p>(1) 教員の相談スキルの向上及び教育相談体制の一層の構築</p> <p>ア 生徒状況の把握及び相談しやすい体制づくり</p> <p>イ 学年・教育相談委員会との情報共有とOJTによる経験の浅い教員への相談スキルの育成</p> <p>(2) 人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちをより一層涵養する。</p> <p>ア 人権HRや講演会、教員研修の実施</p> <p>イ 共生推進教室の生徒との協同事業や交流機会の設定</p> <p>(3) 規範意識の涵養、いじめ防止などについて継続的な指導</p> <p>ア オリエンテーションの実施や啓発文書の配布</p> <p>イ 外部講師による交通事故の防止、SNSの適正利用、講演会の実施</p>	<p>(1) 教員の相談スキルの向上及び教育相談体制の一層の構築</p> <p>ア 年度当初の「高校生活支援カード」の確認、年2回の「安心・安全アンケート」による共有を学年・教育相談委員会で最低年3回実施する。 生徒に相談窓口の設置を告知するとともに、休憩時間における校舎各階の教員による見守りを実施する。</p> <p>イ 週1回の学年会において生徒情報の共有を行い、必要に応じて管理職・首席・学年主任・教育相談委員会・SCが担当教員に指導・助言しながら対応に当たる。</p> <p>(2) 人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの涵養</p> <p>ア 全学年で年1回以上人権HRまたは人権講演会を実施。 人権に関する教員研修を最低年1回実施。</p> <p>イ 共生推進教室が企画する交流会を年1回以上実施。 共生推進教室の生徒と他の生徒とが協同して植栽事業に取り組む。</p> <p>(3) 規範意識の涵養、いじめ防止などについての指導</p> <p>ア 新入生オリエンテーションや集会を通じて基本的な生活習慣やいじめ撲滅について指導する。 毎月の遅刻指導を行う。</p> <p>イ 外部講師を招いた交通安全講習、eネットキャラバンによるSNSの利用方法に関する講演を実施。(新型コロナの影響でリモート開催もあり得る)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」生徒の肯定的回答88%以上[87.5%]</p> <p>イ 学校教育自己診断「悩んだり困ったりした時に相談できる先生がいる」生徒の肯定的回答70%以上[68.2%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」生徒の肯定的回答85%以上[86.1%]</p> <p>イ 学校自己診断「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会がある。」生徒の肯定的回答50%以上[48.5%]</p> <p>(3)</p> <p>ア・イ 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」生徒の肯定的回答85%以上[86.1%]</p> <p>年間遅刻総数を2000件未満 [2358件]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「安心で安全な学校生活を過ごすためのアンケート」(7月・12月実施)、「いじめアンケート」(9月実施) 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」84.9% (○)</p> <p>目標数値には届かなかったが、アンケートを2回実施し、その記載内容や気になる生徒の状況等は教育相談委員会をその直後や必要に応じて開催し共有を図るなど、十分きちんとした対応はできている。今後もより高まるように対応していきたい。(R4年度教育相談委員会22回開催)</p> <p>イ 学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」68.4% 目標数値には僅かに届かなかったが昨年度より若干上回り、概ね達成している。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」84.6% 僅かに目標に達しなかったが、人権講演会(1年：平和学習、2年：LBGTQ、3年：拉致被害)、1年薬物乱用防止教室講習、2年保健講演(デートDV)を実施。また、職員研修(18歳成人トラブル、ネットと差別)を2回実施し人権意識を高めることができた。(○)</p> <p>イ 学校自己診断「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会がある。」45.2% (△)</p> <p>ともに活動する機会の設定を工夫していきたい。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」84.6% 目標数値には僅かに届かなかったが、概ね達成している。(○)</p> <p>年間遅刻総数 3969件 (△)</p>
---	--	--	---	--

<p>4 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導</p>	<p>(1) 早い段階からの進路意識の涵養</p> <p>ア 「総合的な探究の時間」を活用した進路学習</p> <p>イ 外部模試を活用した進路目標達成に向けた準備戦略の確立</p> <p>ウ 進路ガイダンスの実施</p> <p>(2) 進路目標達成に向けたサポート</p> <p>ア 希望者による学習合宿や進学講習の実施</p> <p>イ 英検受験の推進と合格に向けたサポート</p> <p>(3) 「共に学び、ともに育つ」の理念の下、共生推進教室の生徒の社会性スキルの育成と就労をサポート</p> <p>ア すながわ高等支援学校との教育方法の共有と教員間の指導目標の共有</p> <p>イ 外部団体と連携した就労体験や体験活動を通じた社会性スキルの育成</p>	<p>(1) 早い段階からの進路意識の涵養</p> <p>ア 1年生から「総合的な探究の時間」を活用して自分のキャリアを見通した進路選びと目標を立てリポートする。</p> <p>イ 1・2年生において全国模試を1月に全員受験させ、その結果や定期考査の成績、取得した資格や受賞歴などを「夢設計手帳」(本校独自の多機能スケジュール帳)に記載させる。</p> <p>ウ 講師派遣業者や大学・専門学校と連携した全学年への進路ガイダンスの実施。卒業生を招いた進路ガイダンス「先輩に聞く」を実施。</p> <p>(2) 進路目標達成に向けたサポート</p> <p>ア 3年生の夏期講座や希望者による土曜講座を開講。1・2年生対象の夏期・春季学習合宿を開講。(新型コロナにより学習会となる可能性あり)</p> <p>イ 英検受験の推奨と英語科による対策学習の実施により合格をサポート。</p> <p>(3) 共生推進教室の生徒と他の生徒と一緒に活動できる事業の創設を進める</p> <p>ア すながわ高等支援学校の教員の久米田高校訪問を年1回以上実施。すながわ高等支援学校と久米田高校教員との情報交換の促進。</p> <p>イ 障がい者の就労支援団体と連携しながら、2年生から共生推進教室の生徒の就労体験を進め、卒業時の就労内定を支援。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イ・ウ 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」85.0%以上維持[87.2%]</p> <p>イ 進路アンケートにより、「夢設計手帳」にキャリア情報を記載している生徒70%以上[昨年度は調査せず]</p> <p>ウ 実施後アンケートにより、全学年向けガイダンスの肯定的回答80%以上[昨年度はアンケート実施せず]「先輩に聞く」肯定的回答95%以上[95.0%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 中堅上位以上大学レベルの現浪合格数250以上を維持[279] 中堅大学レベルの現浪合格数300以上を維持[388] 看護系20人以上を維持[44] 公務員10人以上を維持[8]</p> <p>イ CEFR A2レベル以上相当資格取得者40名以上[実績なし]</p> <p>(3)</p> <p>ア・イ 共生推進教室3年生全員の進路決定[100%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」84.6% 若干目標数値には至っていないが、ガイダンスや説明会など進路情報について十分提供し考える機会を設定している。(○)</p> <p>イ 進路アンケートにより、「夢設計手帳」にキャリア情報を記載している生徒62.3% (△)</p> <p>ICT活用を進めるにつれて、スマホ等を活用する生徒が増える中、今後の活用の仕方について検討していく必要がある。</p> <p>ウ 実施後アンケートにより、全学年向けガイダンスの肯定的回答97.8% (◎)</p> <p>「先輩に聞く」(公務員編R4.5.28実施)肯定的回答100% (◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア 現浪合格数</p> <p>中堅上位以上大学レベル R3:279→R4:332 中堅大学レベル R3:388→R4:260 看護系 R3:44→R4:61 公務員 R3:8→R4:14 国公立大学現役7名既卒1名の計8名合格。また、公立短大1名合格。また、1・2年対象夏期集中学習会7/20,21,22実施し、参加者1年30名、2年10名計40名参加。更に、1・2年春期集中学習会3/29,30実施し、参加者1年4名、2年4名計8名参加。(◎)</p> <p>イ CEFR A2レベル以上相当資格取得者74名 (◎)</p> <p>(3)</p> <p>ア 共生推進教室3年生全員進路内定 (◎)</p>
<p>5 広報活動の充実</p>	<p>(1) 本校の生徒や教育活動の地域への拡散</p> <p>ア 地元中学校との部活などによる合同活動を推進</p> <p>イ 多くの参加者が安全に楽しく体験授業や部活見学などに参加できるよう学校見学会(説明会)を企画・実施</p> <p>ウ 学校ホームページなどを活用した本校の教育活動の積極的な発信</p>	<p>(1) 本校の生徒や教育活動の地域への拡散</p> <p>ア 中学校から依頼された部活動公演や、中学校部活動との合同練習会を積極的に実施する。中学校から依頼された講演会に教員を派遣する</p> <p>イ 新型コロナ感染対策を講じた上で、できるだけ多くの参加者を収容できるよう実施教室を増やしたり、ローテーション数を増やしたりするなどして学校説明会を実施する。</p> <p>ウ 積極的に学校ホームページの更新し、本校の教育活動をタイムリーに発信する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イ・ウ 中学3年生対象第10月進路希望調査において希望倍率2.30倍以上[2.34倍]</p> <p>ア 連携活動を4回以上実施</p> <p>イ 本校主催の学校説明会を年2回以上実施</p> <p>ウ 学校教育自己診断:「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」保護者の肯定的回答85%以上維持[87.7%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イ・ウ 中学3年生対象10月進路希望調査における希望倍率は1.98倍 目標の倍率には至らなかったが、生徒数が減少している旧4学区16校の中で、10月調査では2番めの希望倍率、1月調査では1番めの希望倍率となった。(○)</p> <p>ア 中学校依頼の共生推進教室説明会を岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市で計4回実施。更に、泉北地区や地元中学校説明会も実施。(◎)</p> <p>イ 本校主催の学校説明会を、夏:8/24,8/25、秋:11/12、冬:12/24に3回(計4日)実施 (◎)</p> <p>ウ 「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」74.6% 目標の倍率には至らなかったが、校長ブログを今年度92件行った。今後はより効果的な発信について工夫していきたい。(○)</p>

府立久米田高等学校

6 職員 の 時間 外 勤務 時間 の 縮 減	<p>(1) 職員が19時までに退勤できる職場環境づくり</p> <p>ア 生徒の最終下校時刻遵守の徹底とそれに合わせた職員の退勤の徹底</p> <p>イ 部活動指導時間のマネジメント</p>	<p>(1) 職員が19時までに退勤できる職場環境づくり</p> <p>ア 校内放送で最終下校を知らせる。日直教員の校内巡回、部活指導方針への明記などにより部活完全下校時刻を徹底する。それに合わせて部員とともに退勤する習慣を管理職から随時呼び掛けを行う。</p> <p>イ 月間部活動計画書を校内の廊下に掲示し、誰もが確認し合い、遵守するよう促す。時間外勤務時間数の多い教員には管理職が随時ヒアリングを行い部活の運営マネジメントについて助言する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イ 職員の月平均時間外勤務時間数を年間（新計算方式による）40時間未満維持[34.33h]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 職員の月平均時間外勤務時間数を年間35h8m（※4月～3月）（○）</p> <p>校務運営の効率化に向けて、具体的取組みを検討して行く。</p>
--	--	---	---	--